

／150	レベル	<h1 style="text-align: center;">広尾学園国語科・推薦図書2024</h1> <p style="text-align: right;">※40～55・95～119・37～150を新規追加</p>		ジャンル
1	★	【書名】 読書力 齋藤孝 岩波新書 【出版社】	なぜ読書をするべきなのか？読書をするどのような力が身につくのか？具体的な目標を提示してくれる好著。これからは読もうという人に読んでほしい一冊。	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）
2	★	【書名】 中学生からの大学講義 色々 ちくまプリマー新書 【出版社】	様々な評論家が自身の専門テーマについてわかりやすく説明してくれている本。講演がもとになっているので読みやすく、読書が苦手な人にも理解しやすいはず。査読している著者はいずれも評論文壇出た人たちのため、読めば読むほど現代文が得意になる！	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）
3	★	【書名】 宝島 ステイヴンソン 光文社古典新訳文庫／岩波文庫／新潮文庫 【出版社】	海の家屋「ペンボウ提督事務所」を手助けしていたジム少年は、泊り客の老水夫から島の地図を手に入れる。島の奥の奥へ航海へ出発するジム。だが、船のゴックとして乗り込んだジョン・シルヴァーは、悪名高き海賊だった。	文学（近現代）
4	★	【書名】 仔鹿物語（上・下） ローリングズ 光文社古典新訳文庫 【出版社】	榛樹林（スクラフ）が広がる土地で厳しい開墾生活を送るバクスター一家。ある日、父ペニーがとっさに撃ち殺した雌シカの傍らに、母を失った仔シカが立ち尽くしていた。息子ジョディは仔シカに魅了され育てたいと両親と懇願する。	文学（近現代）
5	★	【書名】 十角館の殺人 綾辻行人 講談社 【出版社】	アガサクリスティの有名ミステリー「それだれもいなくなった」のオマージュによって成り立つこの作品は、読んだら必ず騙される巧妙なトリックが仕掛けられている。映画や漫画、様々なメディアが溢れる現代で、叙述トリックの面白さは、書籍では味わえない。	文学（近現代）
6	★	【書名】 ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー フレディみかこ 新潮社 【出版社】	著者の息子が通ったのは、英国の「元・底辺中学校」。彼と周りの友達を毎日を母親の視点から描いているノンフィクションです。題名の意味する内容をぜひ読んでください。	ノンフィクション
7	★	【書名】 数の悪魔 ハンス・マグヌス エンツェンベルガー 晶文社 【出版社】	対象年齢は小学生くらいなのでとても読みやすい。国語課にも数学課にも入りやすい内容になっている。	サイエンス系（科学・理学・工学・医学）
8	★	【書名】 クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ 新潮文庫／岩波少年文庫／集英社文庫／光文社古典新訳文庫 【出版社】	クリスマスで有名な人間嫌いのがりがり者スクルージ老人を訪れた、クリスマス・イブの夜の奇跡。文豪が愛する愛と感動のクリスマス・プレゼント。	文学（近現代）
9	★	【書名】 タイムマシン ヴェルヌ 光文社古典新訳文庫／角川文庫／岩波少年文庫 【出版社】	時空を超えるタイムマシンを開発したタイム・トラバラーは、80万年後の世界へ飛ぶ。そこは、地上に住む生物で覆われた「イローロ人」と、海底をめぐらにする輝きあるモーロック人という2種類の原始的な階級社会だった。SFの不朽の名作。	文学（近現代）
10	★	【書名】 ロビンソン・クルーソー デフォー 光文社古典新訳文庫／集英社文庫／岩波文庫等 【出版社】	船に乗るたびに災難に見舞われるロビンソン、無人島漂着ですがすぐに悪運尽きたかと思えたが、住居建設、家畜の飼育、島の探検、パン焼きたなど、試行錯誤しながらも限られた資源を活用し28年も暮らすことになった男の波瀾の人生を描いた傑作。	文学（近現代）
11	★	【書名】 白い牙 ロンドン 新潮文庫／光文社古典新訳文庫 【出版社】	犬の血を分の1割いて、北米の原野に生まれた狼「ホワイト・ファンク（白い牙）」あるとき人間に襲われることになり、人間の残虐さや愛情に陥れることで、心のなかにさまざまな葛藤が生まれるのだった。	文学（近現代）
12	★	【書名】 チルドレン 伊坂幸太郎 講談社文庫 【出版社】	短編のため、気軽に自分のペースで読むことができる。あまり身近とは言いにくい話題にもかかわらず、とても身近に感じられる作品。	文学（近現代）
13	★	【書名】 地底旅行 ジュール・ヴェルヌ 光文社古典新訳文庫／岩波文庫／創元SF文庫等 【出版社】	謎の暗号文を苦心のすえ解読したリーデンブロック教授と彼の助手アクセル。二人は勇敢なガイド、ハンズとともに地球の中心へと旅に出た。前人未到の地底世界を驚異的な想像力で自在に描写したヴェルヌの最高傑作。	文学（近現代）
14	★	【書名】 ハックルベリー・フィンの冒険（上・下） マーク・トウェイン 光文社古典新訳文庫／新潮文庫／岩波文庫等 【出版社】	ジムの後の旅には危険が一杯。さらに途中で運悪れとなった詐欺師どもは厄介事ばかり引き起こす。ときに手に汗握る、ときに地獄絵巻の冒険旅。	文学（近現代）
15	★	【書名】 野性の呼び声 ロンドン 新潮文庫／光文社古典新訳文庫 【出版社】	ゴールドラッシュに沸くカナダ・アラスカ開拓地帯。ここでは犬狼が開拓者の唯一の通信手段だった。大型犬バックは数少ない運命のもと、この地で偉大な運命。感情を揺るがす事件が描かれた、驚天動地のドラマ。	文学（近現代）
16	★	【書名】 銀二貫 高田郁 ハルキ文庫 【出版社】	この小説は「銀二貫」すなわちお金を取り巻く江戸時代の人々を描く時代小説である。必死で貯めた銀二貫を困っている人のために速く使ってしまう助。彼に助けられた鶴之助が周りに人に支えられながら商人として成長していき、最後には「銀二貫」という賞状額面以上の幸せを人々にもたらしていく。人が人が助け合い、支え合うことの大切さを教えてくれる、心温まる人情劇となっている。	文学（近現代）
17	★	【書名】 彼方のゴールド 大崎梢 文藝春秋 【出版社】	千石という出版社で働く若者シリーズの最新刊。スポーツ雑誌に配属された編集者が主人公です。読後感が爽やかなのは、この作者の作品全てに共通しています。	文学（近現代）
18	★	【書名】 サブマリ 伊坂幸太郎 講談社文庫 【出版社】	「チルドレン」の続編。前作を読んでもなくとも楽しめるが、ぜひ前作を読んだうえで手に取ってほしい。偶然の積み重ねによる物語の重厚さを感じてほしい作品。	文学（近現代）
19	★	【書名】 八十日間世界一周（上・下） ジュール・ヴェルヌ 光文社古典新訳文庫／角川文庫／岩波文庫 【出版社】	汽船、火車、象と、あらゆる乗り物を駆使して次々巻き起こる障害を乗り越えていくフォッグ氏一行。旅先で次々に起こる波瀾万丈の物語。	文学（近現代）
20	★	【書名】 トム・ソーヤーの冒険 マーク・トウェイン 光文社古典新訳文庫／借成社文庫／新潮文庫等 【出版社】	トム・ソーヤーは悪さぞ遊びの天才。退屈な教室の授業をクワガタ一匹で遊びたいの場面に愛した。家出して親友のハックルと冒険にふたり。ある時、偶然に殺人現場を目撃してしまう。小さな英雄たちの冒険を嬉々として描いたアメリカ文学の堂々作。	文学（近現代）
21	★	【書名】 戦場の秘密図書館 マイク・トムソン 文芸春秋 【出版社】	シリア内戦下の野ダラヤ、政府軍により封鎖され、日常的に空襲される中、如何に人々が互いの中から本を救出し、地下に図書館を作り、本を読むことによって救われ、絶望的な状況を生き抜いたかを描いた感動的ノンフィクション。	ノンフィクション
22	★	【書名】 そばかすの少年 ボーター 光文社古典新訳文庫／角川文庫 【出版社】	片手を笑い、自分の本名すら知らない孤児の少年「そばかす」は、「リシバロストの森」で木匠師から森を守る番人として働くことになる。孤独と恐怖、厳しい自然と闘いながら、人の愛情に包まれて「そばかす」は逞しく成長していく。	文学（近現代）
23	★	【書名】 恩讐の彼方に 菊池寛 新潮文庫 【出版社】	中学入学後、個人的に最初に関わった本となり。中1ながらも様々な観点に立って読み進めることができた小説になりますので、是非とも中学生になった早い段階で読んでみてください。	文学（近現代）
24	★	【書名】 十二国記シリーズ 小野不由美 新潮社 【出版社】	いやゆる「異世界ファンタジー」なのですが、ビジネス書籍や自己啓発本の類いに比べると明らかに面白くて読んでいてびっくりします。ゲームや漫画は好きだけど「マジメなファンタジー」は苦手、という人にいいかも。	文学（近現代）
25	★	【書名】 12歳からの現代思想 岡本裕一朗 ちくま新書 【出版社】	12歳からと書いてありますが、中身はしっかりと考えさせるものです。身近な疑問から発展させていく哲学の面白さを味わえる1冊。12歳をこつと過ぎた人も是非読んでみてください。	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）
26	★	【書名】 先生はえらい 内田樹 ちくまプリマー新書 【出版社】	挑戦的なタイトルですが、「学ぶ」とはどういうことなのかに気づかされる1冊。読み進めていく内に不思議と著者の論理に引き込まれていきます。	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）
27	★	【書名】 世界地図の下書き 朝井リョウ 集英社文庫 【出版社】	自分の人生をどうやって肯定するか、大切なことは何か、年齢も境遇もバラバラな子どもたちが毎日を一生懸命に生きて考えていきます。最後は温かい気持ちでいっぱいになるそんな一冊です。	文学（近現代）
28	★	【書名】 海の底 有川浩（有川ひろ） 角川文庫 【出版社】	突然豪雨で巨大化した「ザリガニ」が、たまに海上自衛隊の潜水艦に襲撃した少年少女と昔恨は問題児扱いされている自衛隊の二人、突如の閉鎖空間の中で、それぞれの事情を持った姿がどのようにあふれあっているのか。少年少女たちが成長していきあふれあふれ、人気作家・有川ひろの自衛隊シリーズの中で一番好きです。続編がおもしろい短編集「クワラの彼」もぜひ。	文学（近現代）
29	★	【書名】 お江戸でござる 杉浦日向子（監修） 新潮文庫 【出版社】	江戸時代は遠く、江戸の庶民や生活を知ると「日本人って変わらないな」と実感できます。古典の探求でも「奥の細道」以外では、江戸時代の作品をあまり読まないで、私たちと関係ない人たちにだけ読んでほしいかもしれませんが、イベント「祭り」や「お祭り」が大好きな私たちに、私もその状況で読んでみたい。そして、私はこの本で、プライベートにお祭りをかかるといいことを知り、巻末のレシピでスコーンを作っています。	文学（古典）
30	★	【書名】 イギリスはおいしい 林望 文春文庫 【出版社】	「イギリスは料理がおいしい」と言われていますが、本当どう？ 誰かにあんまりおいしくない（笑）でも、イギリスっておいしいものはある。友人ともしょくで食べる手取りや、フレンチやイタリアンで食べる格闘したハイテック・デザイナー、私もその状況で食べてみたい。そして、私はこの本で、プライベートにお祭りをかかるといいことを知り、巻末のレシピでスコーンを作っています。	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）
31	★	【書名】 猫とみれんと 寒川猫持 文春文庫PLUS 【出版社】	気軽に読める歌集。短歌集を読んだことがない人におすすめ。猫好きで、妻に不機嫌たらたらハズシ中身年男のトホホな毎日を描いています。「原稿の古でわが口振るの好 好意謝するにあまりあれども」に「やんやん今日も電話は鳴んぬりゃー 不実な女ばかりだ」読んでふふふと笑って、ちょっとしみります。	文学（近現代）
32	★	【書名】 俳句の図書館 堀本裕樹 角川文庫 【出版社】	俳句に興味がない人でも、「へえ、そうなんだ」と分かるように、俳句の背景や魅力を解説している本。教科書で見たことがある有名な俳句から、現代俳句の句まで豊富なポイントと解説を載せています。巻末にある又書目もこの本を読むと、「自分でも作ってみようかな」と気軽に思えるのではないだろうか。この二人の対談と寒川さん本人もおすすめ。	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）
33	★	【書名】 不実な美女か貞淑な醜女（プス）か 米原万里 新潮文庫 【出版社】	ロシア同時通訳者だった著者が「同時通訳」の現場を生きたと書くエッセイ集。同時通訳に興味がある人は必読。言葉や文化に興味がある人もぜひ読んでみてください。この本では、著者のユーモアが即ち面白いですけれど、「真女の1ダース 正義と常識に冷や水を浴びせぬ3冊は、電車の中で読むのは危険。どちらも笑って、しかも、「へえ」と思うことが盛りだくさんの、言葉と文化に関わる本です。	人文系（語学・文化・文学論・教育・哲学）

34	★	【書名】 【著者】 【出版社】	江戸川乱歩短編集 江戸川乱歩 岩波書店等	探偵小説から不気味な世界観まで、様々な短編を書きつづけた江戸川乱歩の作品集。探偵小説系を読みたい人は「三銃新選」「探偵小説の歩み」あたりから、不気味な世界観を覗いてみたい人は「人間椅子」「鏡地獄」あたりから読むのをオススメします。	文学(近現代)
35	★	【書名】 【著者】 【出版社】	宮本武蔵(一)～(八) 吉川英治 新潮文庫	剣豪宮本武蔵の生涯を描いた歴史小説。強さを求めて様々な決闘を繰り返す中で自分自身を本当の強さを見つめていく成長が面白い。井上雄彦の漫画「バガボンド」の原作にあたる。漫画と原作を読み比べていくのも楽しい。	文学(近現代)
36	★	【書名】 【著者】 【出版社】	蹴りたい背中 綿矢りさ 河出文庫	17才でデビューした著者による、不器用で屈折した青春を描いた短編小説。思春期特有の人間関係を描いており、共感できる人も多いはず。	文学(近現代)
37	★	【書名】 【著者】 【出版社】	地獄楽 芥川龍之介 ハルキ文庫等	狭き間に人間存在の本質を描く短編の名手である芥川龍之介の短編集。「地獄楽」のほか、「蜘蛛の糸」「羅生門」「藪の中」「蜜柑」「トロッコ」など、名作揃い。どれを読んでもその作品世界は深く印象に刻まれるはず。	文学(近現代)
38	★	【書名】 【著者】 【出版社】	汚れつちまつた悲しみに 中原中也 集英社等	華語系天才詩人・中原中也の代表詩集が収められた1冊。「汚れつちまつた悲しみに」の題に添って書意を知っていますか?知らなかったら読みましょう。その他有名詩「サーカス」なども収められている。童謡的には「青」がオススメです。	文学(近現代)
39	★	【書名】 【著者】 【出版社】	砂糖の世界史 川北稔 岩波ジュニア新書	身近な砂糖の歴史に注目することで、世界が見えてくる「グローバルゼーション」や「コロニアリズム」など、評論文で頻出の概念についてもわかりやすく説明してくれています。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
40	★	【書名】 【著者】 【出版社】	僕は上手にしゃべれない 椎野直哉 ポプラ社	主人公・悠太は、中学入試後に疾病を患って発言から外に出てしまふ。なぜなら、彼は吃音で、自己紹介で絶対にどまってしまう、みんなに笑われる。そんな悠太が成長していく姿や物語、吃音に悩む、周囲に馴染めないと感じている人は多いはず。そんな中学生にぜひ読んでほしい。	文学(近現代)
41	★	【書名】 【著者】 【出版社】	NO.6 あさのあつこ 講談社文庫	近未来ディストピア小説。すべてが統制された理想都市No6でエリートとして育てられた少年・紫苑は、12歳の誕生日の日、ケガをしたネズミと名乗る少年をかくまうことで、最下層へ追放されてしまう。理想的に見えるNo6の裏面にネズミとともに暴走することで、紫苑は世界を知っていく。とにかくキャラクターが魅力的。	文学(近現代)
42	★	【書名】 【著者】 【出版社】	一瞬の風になれ 佐藤多佳子 講談社文庫	高校部活動に燃える青春小説。中学校ではサッカーをやっていた主人公が、高校で陸上部に入り、友人の天才スプリンター・謙達を追いかけ、400mリレーに挑む。天性の才能はなくても、努力で実力をつけていく主人公が爽やかです。こういう何かで熱中する高校生活を送らなかったなと大人の私には羨ましい限りですが、現役の皆さんも、心に響くはず。全3巻がまとった書きやすさ一気読みできます。	文学(近現代)
43	★	【書名】 【著者】 【出版社】	はじめは駄馬のごとく ナンバー2の人間学 永井路子 文春文庫	2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公である北条義時、300年経った江戸幕府の基礎を作った二代目徳川将軍・秀忠など、権力の頂点に立います。ナンバー2の立場から歴史を動かした人物5人。そうではなかったために悲劇の運命を遂げた高僧2人をとりあげた歴史エッセイ。歴史に名を残すより、その影で歴史を操るナンバー2の立場の方が面白いかもしれません。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
44	★	【書名】 【著者】 【出版社】	リーチ先生 原田マハ 集英社文庫	好いものは好い。そう感じる私たちが日本人の心には、きつりーチ先生がいる。日本を愛し日本に愛されたイギリス人陶芸家の美と友情に満ち溢れた生涯を描く感動的アート小説。第39回新潮社文学賞受賞作	文学(近現代)
45	★	【書名】 【著者】 【出版社】	スキップ 北村薫 新潮文庫	まどろみから覚めたとき、17歳の(わたし)は、25年の時空をかるる飛んで4歳の(わたし)に着地した。「ターン/リセット」と並ぶ(時と人)三部作。ミステリの名手が操る時間の魔法を楽しめる。(円紫さんシリーズ)も必読。	文学(近現代)
46	★	【書名】 【著者】 【出版社】	クララとお日さま カズオ・イシグロ ハヤカワepi文庫	AIを搭載したロボットのクララは、病弱な少女と友情を育んでゆく。愛とは、知性とは、家族とは、生きることの意味を問う感動作。	文学(近現代)
47	★	【書名】 【著者】 【出版社】	舟を編む 三浦しをん 光文社文庫	映画化もドラマ化もされた原作。「大蓬海」という用語辞典の編纂に携わる人々のお話。辞書に載せる説明って、こんなに大変で、こんなに魅力的なんだと気づきます。できれば文庫ではなく単行本の形で読んでほしい。そして、最後に、表紙デザインに伏せ掛けにほれほれとしてほしい。話の魅力と、表紙の魅力が詰まった一冊。	文学(近現代)
48	★	【書名】 【著者】 【出版社】	あひる 今村夏子 角川文庫	子育てでも一段落した老夫婦がある日あひるを話し始める。話の小学生たちが集まり家は活気を取り戻す。その活気に取り憑かれたようにある日を思い続ける。と、段々と大変なことに。	文学(近現代)
49	★	【書名】 【著者】 【出版社】	凍りのくじら 辻村美月 講談社文庫	長編小説の入門的難易度なので、誰にでもお勧めできます。文体、言葉、展開、長さなどなど、全てが丁度よく作文の勉強にもなります。ですが、しっかりと腰を据えて読まなければいけない箇所もあるので、中学生にもお勧めです。	文学(近現代)
50	★	【書名】 【著者】 【出版社】	太郎物語 一高校編一 曾野綾子 新潮文庫	【学生生活のかけがえなさ①】 ひとやに学生生活についても、なかなかまなまならないもの。作品の背景はみなさんにとっていさか古いですが、太郎君の日常はみなさんの指針になるはずですよ。	文学(近現代)
51	★	【書名】 【著者】 【出版社】	レボリューション №3 金城一城 角川文庫	【学生生活のかけがえなさ②】 素敵な仲間と一緒に、学生生活はひと味違ったものになります。これも「自律と共生」のひとつの形です。	文学(近現代)
52	★	【書名】 【著者】 【出版社】	鴨川ホルモー 万城目学 角川文庫	【学生生活のかけがえなさ③】 これを読むと、京都の鴨川が「ホルモー！」って呼びたくなります。ご注意ください。	文学(近現代)
53	★	【書名】 【著者】 【出版社】	風が強く吹いている 三浦しをん 新潮文庫	【学生生活のかけがえなさ④】 箱根駅伝の見方が変わります。全力を尽くして、格好悪いことではないのです。	文学(近現代)
54	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	アンドロイドは電気羊の夢を見るか? フィリップ・K・ディック ハヤカワ文庫	SFの古典とも言うべき本作。迷ったアンドロイドを賞金目当てに破壊する仕事に従事する主人公。しかし、彼らに会ううちに、人間とアンドロイドの差が分からなくなってくる。「人間とは何か」「人間らしさとは何か」というテーマは、普遍的。SF好きな人はもちろん、苦学な人も、この1冊だけは読んでほしい。	文学(近現代)
55	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	華氏451度 レイ・ブレードビル ハヤカワ文庫	本が禁止されている世界で、本を焼き払う温度が「華氏451度」。これは233°Cのことで、紙が自然発火する温度。そんな世界はありえないでしょうか。「スピードを求めあまり複雑な事は省略され、短く単純化される」「手取り早く、結果だけ手に入れられるものが好まれる」世界って、今の世界と同じではないでしょうか?SFはとっ先の未来を考える絶好の本なんです。	文学(近現代)
56	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	寝ながら学べる構造主義 内田樹 文春新書	詳説文におけるテーマ知識として、構造主義に関する文章は随分と、この本は構造主義の中心となった思想について、わかりやすく身近な例を用いて説明してくれる。大学受験対策にも効果的な1冊。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
57	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	和歌とは何か 渡部泰明 岩波新書	古文を勉強して和歌がどうもつかりやないと感じた人はいませんか?そんなあなたにこの1冊をオススメします。和歌の技法について様々な例を用いてわかりやすく説明してくれて、古文の世界における和歌をめぐる文化について理解できるはず!	文学(古典)
58	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	はじめて学ぶ生命倫理 小林聖津子 ちくまプリマー新書	生命倫理とは命をめぐる倫理的判断のこと。様々な医療現場において、どのような判断のもと医療行為が為されているか、その問題を考えている私たちの命の重さが浮かび上がってきます。将来医師になりたいと思っている人は是非読んでください。	サイエンス系(科学・理学・工学・医学)
59	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	苦海浄土 石牟礼道子 講談社文庫	工場廃水の水銀が引き起こした文明の病・水俣病を、我々は社会の教科書でしか知らない。この作品は、平凡な主婦であった著者が、患者と出合い、その家族の苦しみと自らのものとして、社説かつ清冽な記録を綴った「らの文学」である。	文学(近現代)
60	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	人間の大地(土地) サンテグジュペリ 光文社古典新訳文庫/新潮文庫	郵便機のパイロットとして長いキャリアを持つ著者が、黎明期のパイロットの生き様を時に臨場感あふれる、時に哲学的に語る。人間にとって大切なものは何かを問い詰めたサンテグジュペリ文学の大傑作。	文学(近現代)
61	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	原爆供養塔-忘れられた遺骨の70年 堀川恵子 文春文庫	広島平和記念公園の一角に、被害者の遺骨を納めた「原爆供養塔」がある。原爆が投下されたあの日、広島で何が起きたか。そして人々は、その後何をどう過ごしたか。優れたノンフィクション作家による、知られざるヒロシマの物語。	ノンフィクション
62	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	項羽と劉邦 司馬遼太郎 新潮文庫(上・中・下)	あなとは項羽派? 劉邦派? 将軍の家系出身の項羽と、農民出身の劉邦が覇権を争う。中国の歴史書「史記」(司馬遷)をもとにした、作者の独自の視点から描いていく。いまだに日本人に人気の多い歴史ドラマ。	文学(近現代)
63	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	野火 大岡昇平 新潮文庫	絶望的な運命、犠牲的な殺人、肉食への欲望、そして同胞を捨て生き延びようとする戦友たちという現実。戦争を知らない我々が、残酷に笑われるイメージとは大きく異なる戦争のリアルがここにある。	文学(近現代)
64	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	陰翳礼讃 谷崎潤一郎 角川文庫	作者谷崎潤一郎は「源氏物語」の現代訳語を奏楽に、日本古典に取材した小説を数多く著し、日本の美意識の深淵を探究した作家である。西洋の光に美を求めず、日本はそれの光によってできた「ほんやり」として「顔」に美を見出す。グローバル化の進む現代において、改めて日本の美の本質とは何かを考えるきっかけになる一冊である。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
65	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	東大教授が考えるあたらしい教養 藤垣裕子・柳川範之 幻冬舎新書	ネットやSNSとあらゆる情報が得られる現代、本物の教養を身に付けるにはどうしたらいいか?どうすればいいの?が考えられます。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
66	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	こんな夜更けにバナナかよ 渡辺一史 文春文庫	一人ではまきごころのできない筋ジストロフィー患者である鹿野瑠璃明という青年と、彼をボランティアで支える学生や主婦の日常の記録。だが、ここにあるのはありがちな感動物語ではない。ボランティアや介護・福祉の問題を考えるための好書。*別に原案渡辺一史、脚本橋本祐志による小説版「こんな夜更けにバナナかよ」がある。	文学(近現代)
67	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	霞町物語 浅田次郎 講談社文庫	「霞町ってどこかわかりますか?」広島学園を出て外務省通訳を志す尾崎と逆方向に行く霞町(現・西麻布)の交差点があります。大学受験を控えた高校生が、恋に迷い、この町で輝かしい人生を積み重ねていく。	文学(近現代)
68	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	完本 短編集モザイク 三浦哲郎 新潮社	【小説ならではの心情表現を味わいたい君に】 「世帯日記」も良いのですが、入手しやすいこちらを。文庫版もあります。短編の名手でもあった著者による珠玉の作品集。人情の機微の分かる大人になりたいあなたに。	文学(近現代)

69	★★	【書名】 沈黙 【著者】 遠藤周作 【出版社】 新潮文庫	キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル人司祭ドロゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教の苦痛に接して苦悶、ついに背教の淵に立たされる。(神の沈黙)という永遠の主題に切実な問いを投げかける作品。	文学(近現代)
70	★★	【書名】 人間失格 【著者】 太宰治 【出版社】 新潮文庫／文春文庫／角川文庫／岩波文庫／ちくま文庫	「恥の多い生涯を送ってきました」の奇怪な写真と共に渡された藤野康中書の手記には、その陰鬱な半生が究明に描かれていた。人間が本来持つ弱さを描きあげた「人間失格」はまさに太宰治の自伝であり遺書である。	文学(近現代)
71	★★	【書名】 ねじまき鳥クロニクル 【著者】 村上春樹 【出版社】 新潮文庫	不思議な登場人物たちによって起こされる様々な奇妙な出来事を通して、人間の持つ普遍的な善と悪が描かれた傑作長編。	文学(近現代)
72	★★	【書名】 月光の夏 【著者】 毛利恒之 【出版社】 講談社文庫	「月光」は、ペートルヴェンのピアノソナタ第4番、あの「月光」。太平洋戦争末期、特攻基地に向かう特攻隊員が、出発前にグランドピアノを弾くために、国民学校を訪れる。…実話などをもとに創作された作品。	文学(近現代)
73	★★	【書名】 氷点(上・下) 【著者】 三浦綾子 【出版社】 角川文庫	春、夏枝が油断している間に9歳の娘を殺害された泣き叫ぶ、夏枝への復讐のために、密かに当の殺人犯の娘・優子を養女にする。人間の愛と恨しをテーマにして大ベストセラーとなった作品。	文学(近現代)
74	★★	【書名】 アルジャーノンに花束を 【著者】 ダニエル・キース 【出版社】 ダニエル・キース文庫(早川書房)	32歳になって幼児の知能しかない白痴の店員チャーリー・ゴードン。やがて手術により、チャーリーは天才に変身したが、優秀な頭脳を手に入れた青年の愛と憎しみ、喜びと孤独を通して人間の心の真実に迫る現代のバイブル。	文学(近現代)
75	★★	【書名】 箱船の航海日誌 【著者】 ウオーカー 【出版社】 光文社古典新訳文庫	ノアは神に命じられた通り、洪水に備えて箱船を通り、動物たちとともに海を渡す。しかし舟のなかに禁断の肉食を知る動物たちが紛れ込んだことから、無垢で平和だった箱物の世界は、確実に変化して行くのだ。	文学(近現代)
76	★★	【書名】 論文捏造 【著者】 村松秀 【出版社】 中公新書ラクレ	科学の殿堂・ベル研究所の、若きガリスマ、ヘンドリック・シェーン。彼は超電導の分野でノーベル賞に最も近いといわれた。しかし2002年、論文捏造が発覚。周囲はなぜ彼の不正に気がつかなかったのか? 現代の科学界の構造に迫るノンフィクション。	ノンフィクション
77	★★	【書名】 ヴィオンの妻 【著者】 太宰治 【出版社】 新潮文庫	高校に入ったすぐの頃、友人に無理やり連れいかれた誘惑書。その対象作品がこの小説です。当時、私は太宰が好きではなかったため、太宰ファンと揶揄をたたかわれてきたことになってしまった思い出の一冊です。	文学(近現代)
78	★★	【書名】 マイナス・ゼロ 【著者】 広瀬正 【出版社】 集英社文庫	大学生になりSF小説にはまっていた頃、友人が勧めてきた本の中で、唯一、一気に読み進めました長編小説です。そのため、しばらくの間「広瀬ワールド」にはまっていたのもいい思い出です。	文学(近現代)
79	★★	【書名】 塩狩峠 【著者】 三浦綾子 【出版社】 新潮社	実例の鉄道事故を元にしたこの小説の、多数の乗客の命を救うため自らを犠牲にした鉄道職員の高潔、正義、職務意識など、臨場感を伴って読めるため、本当に感動します。	文学(近現代)
80	★★	【書名】 おちくば姫 【著者】 田辺聖子 【出版社】 角川書店	古典の現代語訳本で、日本語版「シテラ」です。こちらの場合、ハッピーエンドの後、継母姉らへの王子様からの復讐が容赦なく、痛快です。この書風の文庫だと、装丁もオシャレで素敵です。	文学(古典)
81	★★	【書名】 告白 【著者】 町田康 【出版社】 中公文庫	パンクロックで小説家という異色の経歴を持つ著者による小説。「本当の自分」というように描かれた主人公の生き様に人間存在の本質を見る。その文体も内容も強烈な印象を残してくれる。	文学(近現代)
82	★★	【書名】 日本語練習帳 【著者】 大野晋 【出版社】 岩波新書	私たちが「日本語」を知っているのか、正しく使えているのか、「思う」と「考える」は何が違うのか、「は」と「が」の使い分けは何なのか、「語法は好きだ」と「語法が好きだ」の違いは何かから生まれるのか? 日本語を母語として使う私たちが見過ごしてきたことを再見してみよう。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
83	★★	【書名】 殿り合ひ貴族たち 【著者】 紫田信一 【出版社】 角川ソフィア文庫	平安貴族は優雅で和歌を詠んだり嵐歌をして遊んでいたのでしょうか? というイメージを完全に覆す「ケンカ上等」な人々のお話。多少、著者による誇張はあるものの、当時の日記「小右記」に基づき平安貴族の実態、「源氏物語」では絶対に描かれなかった貴族社会を知りたい人はぜひ。同じ著者の「王朝貴族の悪たぐい 清少納言機一屋」も「枕草子」も面白いです。	文学(古典)
84	★★	【書名】 日本語の古典 【著者】 山口伸美 【出版社】 岩波新書	奈良時代の「万葉集」から江戸時代の「前編見八代伝」まで、日本の古典0作品を見開き3~4ページで解説した古典文学早わかりの一冊。単なる古典作品の概観本ではなく、「日本語の楽しさ・面白さ」を味わえるよう、抜粋した原文と、著者が楽しんで読んでいる文章を並べて紹介しています。この本でまずはこの古典作品、おもしろそう! という作品を知ることができそうです。	文学(古典)
85	★★	【書名】 蝉声 【著者】 河野裕子 【出版社】 青磁社	現代の歌人・河野裕子の遺作集。家族を愛した短歌を詠じた彼女が「闘病生活」の中で詠んだ歌の数々。こうして家族に守られながら、決して家族を心配しなかったという女性の気持ちは、個人的でありながら普遍的。「しがみついて生きていく」ならそれで一生(ひとよ)を生き切ることばは残す! 手をとってあなたとあなたに触れたいに息が足りないこの世の息が。	文学(近現代)
86	★★	【書名】 李白と杜甫 【著者】 高島俊男 【出版社】 講談社学術文庫	唐の詩人・李白と杜甫の人生と詩を、とても読みやすく解説している。杜甫が賞賛でありながら文章が苦手な、全部が解らないという人が多かった。また、李白が「狂言」なことをやって世評を落としたこと、思ひ入人柄が愛されて、著者のエッセイ集「李白が好き 悪口言ふのも好き」に、この本のコンパイルがまめとあり、こちらもおもしろい。中国文学(漢文・漢詩)が依然面白くなります。	文学(古典)
87	★★	【書名】 虚無への供物 【著者】 中井英夫 【出版社】 講談社文庫	小栗太一郎著「黒死病殺人事件」、夢野久作著「ドラ・マ・クワ」とともに日本三大奇書の一冊に数えられる。かつての室石商、水沼家に起きる数々の事件を登場人物達がさまざまに推理する。だが、その推理は混迷を極め、推理小説でありながら反推理小説とも評される傑作。	文学(近現代)
88	★★	【書名】 掬摸 【著者】 中村文則 【出版社】 河出文庫	天才的な日記である「掬摸」は、ある日最も美しい「水」を再会し、過剰な話題を垂れ下すことになり、「反社会的な内容だけ、残虐な描写の多い生きた人間の掬摸を書いた物語」一作者自認によるこの言葉が、本作品を象徴している。	文学(近現代)
89	★★	【書名】 燃えよ剣(上)(下) 【著者】 司馬遼太郎 【出版社】 新潮文庫	岡田准一主演で映画化もされた本作。これを読んで、新選組・土方歳三に惚れない人はいないんじゃないか? って思うくらい魅力。司馬遼太郎の歴史文に最初は無感動かもしれませんが、これがいい! と感じることができるようになった。歴史の司馬ワールドへようこそ! この本で新選組に興味を持ったが「新選組風土記」も読んでみよう。お気に入りの歴史書を見つけよう。	文学(近現代)
90	★★	【書名】 三四郎 【著者】 夏目漱石 【出版社】 岩波文庫／角川文庫／新潮文庫等	夏目漱石によるが国最初の本格的な青春小説。九州から大学入学のため上京した小川三四郎が経験するさまざまな「悪い」を極く、「それから」門へと続く前期三部作の一冊。	文学(近現代)
91	★★	【書名】 原民喜一死と愛と孤独の肖像 【著者】 梯久美子 【出版社】 岩波新書	「夏の花」や「心願の園」など数種をまとめた作品で知られる原民喜。その原の、死を思う幼少時期から、ひと時の平安を得た妻と暮らす青年期、そして、被爆から自死へと向かう早すぎる晩年までの生涯を描いた傑作評伝。	ノンフィクション
92	★★	【書名】 なりきり訳 枕草子 平安の衣食住をくれば古典がわかる 【著者】 清少納言著／八條忠基訳 【出版社】 淡交社	誰も知らない「枕草子」を現代人が読みやすいように訳したものです。さらに本文には美しい挿絵の心の叫びが付きわたりやすい。全ページの下段には平安時代の暮らしについての解説もあり、この1冊を読むだけで古典への理解がぐんと深まります。	文学(古典)
93	★★	【書名】 単純な脳、複雑な「私」 【著者】 池谷裕二 【出版社】 朝日出版社・講談社	脳科学研究の第一人者が、母で高校生たちに突如話した講義録。「手を洗えば、理系が文系が判別できる?」「わかるのにできない」「心が痛い」は、脳でほんたに痛みを感じている?」「文系にも分かりますよ!」など、面白い内容。私は「ふん!」の1語で、本書の内容を誰かか「話したくて仕方ありません」。	サイエンス系(科学・理学・工学・医学)
94	★★	【書名】 現代語訳 学問のすすめ 【著者】 福沢諭吉 齊藤孝(訳) 【出版社】 ちくま新書	「実はこの上の人を作らず、人の下の人を作らず」という有名な一文は、聞いたことがあるでしょう。しかし、これには続きがあります。タイトルの「学問のすすめ」を真に理解すると、「学問は、「教養」なんている生動しいものではないことに気づくはずです。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
95	★★	【書名】 「自分らしさ」と日本語 【著者】 中村桃子 【出版社】 ちくまブリーマー新書	言葉遣いは、自分自身を表現する手段です。新しい表現も、新しい「私」や時代を表現しています。家族といふ時、友人といふ時、SNSで使う時、それぞれ「私」を使い分けることでどんな「自分らしさ」を表現しているのかを理解する一冊。ちょっと古い例があるが宝島社ですが、とても分かりやすい社会言語学入門。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
96	★★	【書名】 論語入門 【著者】 井波律子 【出版社】 岩波新書	孔子は「吾十有五にして志于学」とか言うから、真面目な勉強好きのカタパツンだろ? なんて思いませんか? いやいや、この方はね。なかなかユーモアもあるし、賢くも思いついて面白い。勉強好きの明るい人です。漢文の勉強として「論語」を知るには、第2巻「考の元の原則」、孔子の人格を知るには第4巻「孔子の素論」がおすすです。	文学(古典)
97	★★	【書名】 琉球処分(上・下) 【著者】 大城立裕 【出版社】 講談社文庫	処分官として派遣された松田運之が琉球に突きつけたのは、高宗王の上京、清国への朝貢禁止、明治年号の強制など独立どころか進としての体裁をも奪うものであった。琉球内部でも立場により意見が分かれ、「世界で軍隊をいちはらきうという琉球」がどう対処するのか。小説で沖縄問題の根源に迫る不朽の名作。	文学(近現代)
98	★★	【書名】 チェルノブイリの祈り-未来の物語 【著者】 ステラノア・アレクシエービッチ 【出版社】 岩波現代文庫	1986年の巨大原発事故に遭した人々の悲しみと衝撃とは何か。本書は普通の人の人々が受けてきたことを、被災地での生活取材で取材したドキュメント、再発地に暮らす老人、酒の飲りて事故現場作業に従事する男、戦火の故郷を離れて汚染地で暮らす若者、四半世紀後の福島原発事故の渦中に、チェルノブイリの真実が露骨。	ノンフィクション
99	★★	【書名】 水滴 【著者】 目取真俊 【出版社】 文春文庫	徳正の石壁が突然冬のように凍れ始め、親指の先から水が噴き出したのは六月半ばだった。それから数週間、徳正のペドを男たちの亡霊が訪れ、満る水に口をつける。五十年前の沖縄戦で、塚に置き去りにされた兵士たちだった。	文学(近現代)
100	★★	【書名】 僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう 【著者】 山中伸弥、羽生 善治、是枝 裕和、山根 壽一、永田 和宏 【出版社】 文春新書	各々の著者名を並べての講演と永田氏との対談集。「何者でもなかった頃」の話を最近感を感じるか、「ああ、やっぱり僕らもそうだった」と、それを感じて思ったり、涙でほんたに涙を流している。悩んでいる(現在進行形)、特に、ゴリラの山根さんの人間にはないような能力があるという一言は、勇気づけられます。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
101	★★	【書名】 10万人を超す命を救った沖縄県知事 【著者】 島田敏 【出版社】 ポプラ新書	1945年1月太平洋戦争の最中、米軍が迫る沖縄に戦中最後の知事として赴任5カ月の間だが、良民保護の立場を貫き、沖縄県民と最後まで行動をともにした。玉砕が叫ばれる中で「生きる」と言い続けた島田の生き方を通して、沖縄戦とはどのようなものだったのかを伝え、命の重みを問う。	ノンフィクション
102	★★	【書名】 大沼ワルツ 【著者】 谷村志保 【出版社】 小学館文庫	明治期の北海道大沼の開拓者たちは、この地を新天地として自分たちらしく根を張ろうとする。母と三兄弟、そこに嫁いで来た個性あふれる三姉妹、困難に見舞われながらも力強く生き抜く大家族の物語。	文学(近現代)
103	★★	【書名】 古池に蛙は飛びこんだか 【著者】 長谷川權 【出版社】 中公文庫	蛙は本当に飛びこんだのだろうか。古池の一句の真実ととらえ、数々の名句について詳述。芭蕉はほんたにも面白いのかと驚きにあふれる一冊。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)

104	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	沖繩の島守 田村 洋三 中公文庫	第二次世界大戦下の沖繩で、県民の疎開、食料調達、戦場での避難輸送に尽力した末、殉職した人の官儀がいた。4人に1人が死んだ沖繩戦の最中、犠牲を最小限に止めるべく命がけで戦った官儀達の道徳を披露。	ノンフィクション
105	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	私とは何か ―「個人」から「分人」へ― 平野啓一郎 講談社現代新書	「本當の私は、こんなじゃないのに」と思ってしまったら、「こんな自分は嫌いと感じる時に読んでほしい一冊。人は「個人」という一つの塊ではなくて、相手との関わりにおいて「分人」で構成されているという考え方を取り入れると、きっと好きな私＝分人 があるはず。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
106	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	ロング・グッドバイ レイモンド・チャンドラー ハヤカワミステリ文庫	私立探偵フィリップ・マロウは、ふとした友情から見知らぬ探偵サー・二度も救ってやった。そして彼はサーの殺害現場を視察する時三たび立ち上るのだ! ハードボイルド派の王座を占めるチャンドラーが五年間の洗練を凝り凝り発表した華生の傑作。	文学(近現代)
107	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	孤宿の人 宮部みゆき 新潮文庫	私は電車の中でこのラストを読んでしまい、涙がとまらなくてその電車を降りました。江戸時代の横濱(香川島)を舞台とする時代小説。9歳の少女(ほろ)の視点で語られる怪異とどういふものであったのか。悲しくて、でも、希望のある読後感。	文学(近現代)
108	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	少将滋幹の母 谷崎潤一郎 新潮文庫	母の権力者大佐大尉陣が人妻を奪う。母を奪われた滋幹は母の情人がしたためた恋文を自らの前にかけ、母の元に逃がす。平安文壇に特筆した谷崎の代表作。	文学(近現代)
109	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	いちにち、古典 田中典子 岩波新書	朝から晩までの1日の時間というものを軸に日本古典を縦横無尽に語った本。これを読むと古典の世界の人々がどういふ時間感覚で生きていたのかがよくわかります。	文学(古典)
110	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	血の日本史 安部龍太郎 新潮文庫	日本史における「反乱」をテーマとした短編小説集。通史を「反乱」を通して見返していくと様々な人間ドラマのつながりが自然と見えてきます。	文学(近現代)
111	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	封印再度 森博嗣 講談社文庫	建築学の大学院生・西之園南絵と犀川創平准教授のシリーズ第五作。第一作「すべてが狂になるから読むのもよいが、この作品だけでも楽しめる。かつ、トリックがあるほどと誇ります。そして、タイトルのダブルミーニングにも気づくと、なお一層面白いです。	文学(近現代)
112	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	命売ります 三島由紀夫 ちくま文庫	難解な「春の宴」や物議を醸した「金閣寺」は、ちょっと難しと感じたあなたに、三島由紀夫ってこんな軽やかでファンタジーな小説も書いていたんだと思って、ハードルが下がります。	文学(近現代)
113	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	神の子どもたちはみな踊る 村上春樹 新潮文庫	阪神・淡路大震災を題材にした春樹が綴った、六畳からなる連作短編集です。そのうちの「かえるくん、東京を救う」は多くのリーディングに彩りを増した作品として知られています。これを読めば、なぜ「すべての戸締まり」で地震を起すのかのみならず、理解できるでしょう。	文学(近現代)
114	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	言語の本質 ―ことばはこう生まれ、進化したか― 今井つみ・秋田喜美 中公新書	赤ちゃんや言葉の身につけかぎはオノマトペにあった。『最新の発達心理学や言語学の知見に基づきながら、楽しくわかりやすく言語習得の謎に迫ります。ミステリー感覚でも楽しめる、異色の新書です。』	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
115	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	百人一首 田淵句美子 岩波新書	『百人一首』がどのように編纂されたのかを新編集との比較から読み解いていく。『百人一首』成立の秘密を探していく過程が面白い!	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
116	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	蒼穹の昴 浅田次郎 講談社文庫	【小説で歴史を感じる①】 浅田節全編。清国末期の動乱を生きた科学と軍官の怒涛の物語。	文学(近現代)
117	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	天切り松 間がたり(1~5) 浅田次郎 集英社文庫	【小説で歴史を感じる②】 格好いいって、こういうこと。	文学(近現代)
118	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	戦場のコックたち 深緑野分 創元推理文庫	【小説で歴史を感じる③】 米軍のコック兵士の視点から、戦場での醍醐味を綴りながら、第二次世界大戦ヨーロッパ戦線を描く。	文学(近現代)
119	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	時の娘 ジョセフィン・テイ 創元推理文庫	【小説で歴史を感じる④】 入院中の聖母がベッドの上で、世紀の悪人と呼ばれているリチャード三世の謎に挑む。	文学(近現代)
120	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	ヒトラーとナチ・ドイツ 石田勇治 講談社現代新書	なぜヒトラーはあれほどまでの支持を集めたのか?なぜ誰も暴走する政權を止められなかったのか?丁寧な時代考証を踏まえて時代的に断罪される人間のあり方が浮かび上がってきます。現代社会を考える上でも多くのヒントを与えてくれる1冊。	社会科学系(法・経済・社会)
121	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	一九八四年 ジョージ・オーウェル ハヤカワepi文庫(早川書房)	『ビッグブラザー』率いる党が支配する全体主義的近未来。ウィンストン・スミスは真理探検隊員としての改訂を仕事とする労働者であったが、次第に反政府地下活動に惹かれるようになる。テキストピアを描いた二十世紀世界文学の最高傑作。	文学(近現代)
122	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	深夜特急 1~6 沢木耕太郎 新潮文庫	今の国際情勢で到底成り立たないユーラシア大陸横断の旅。インドのデリーからイギリスのロンドンまで、乗合バスで行く。ある日そう思い立つ26歳の筆者は、仕事をすべて投げ出して旅に出た。自由と開放感に満ちた、旅の醍醐味を余すことなく伝える26巻。	文学(近現代)
123	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	椿の海の記 石牟礼道子 河出文庫	水俣の豊か自然とその中に生きる魅力溢れる人々の姿が、四才の幼女の視点から、自由で詩的な文体で描かれている。『苦海浄土』の作者による自伝的作品。	文学(近現代)
124	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	大江健三郎自選短編 大江健三郎 岩波文庫	『奇妙な仕事』『飼育』など、みずみずしい初期の作品から『雨の木』を結ぶあたりまで中・後期の作品までを収めた作者自身の手による自選短編集。	文学(近現代)
125	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	日本の思想 丸山真男 岩波新書	【現代日本を本質的に捉えたい君に】 前提となる知識・時代背景の理解がないと難しいですが、日本社会に関する卓抜な指摘は極めて本質的です。最後の「『である』と『する』に」とから読み始めると読み易いかもしれません。	社会科学系(法・経済・社会)
126	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	幼年期の終わり クラーク 光文社古典新訳文庫／ハヤカワ文庫SF	地球空間に、突如として現れた巨大宇宙船。オーヴァーロード(数億君主)と呼ばれる異星人は姿を見せることなく人類を統治する。彼らの真の目的は何か? 異星人との遭遇によって変わっていく人類の姿を哲学的に描いた傑作SF。	文学(近現代)
127	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	カラマーゾフの兄弟 <全5巻> ドストエフスキー 岩波文庫／新潮文庫／光文社古典新訳文庫	帝政ロシアの予兆をほらロシアのある町で殺人事件が起こり、ミステリータッチの衝撃的なストーリーが展開される。ロシアの文豪ドストエフスキーの遺作。	文学(近現代)
128	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	赤目四十八瀬心中未遂 車谷長吉 文藝春秋	難しいです。特に序盤は、時系列が行ったり来たり。ただし、読めると主人公の人生についてかなり深く想像しやすくなる小説です。美しみの(一つ)としては、タイトルで「未遂」と言っていること。つまり、「死なない」というオチが予めわかっている状態でも構いません。では何を表現したいお話なのか、いろいろな想像し考えながら読むとよいと思います。ちなみに、基本免費著作です。	文学(近現代)
129	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	世界哲学史1~8 色々 ちくま新書	哲学の歴史を世界全体から見渡そうという素晴らしいシリーズ。2020年4月現在刊行中で毎月1冊ずつ出版されています。哲学は西洋だけのものではなく、時間・空間を超えた人類の営みであることがわかる。大学生になってからでも良いので是非挑戦してみよう。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
130	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	現代思想史入門 船木亨 ちくま新書	現代の思想状況を5つのテーマにわけて解説する本。新書ながらその分厚さに驚かされるかもしれないが、それだけ中身も充実した1冊。通読することで現代社会を生きていく見通しが得られるかもしれない。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
131	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	光源氏の一生 池田弥三郎 講談社新書	光源氏に対してどのような印象を持っているでしょうか。もしかいたら「マザコン」「ロリコン」で終わってても人々もいではないでしょうか『源氏物語』から彼の一生を詳しく描く。一言では言い尽くせない豊かな人間性を感じることが出来ます。原文はちょっと、と思う人も、光源氏にスポットを当てた『源氏物語』の入門書として読んでみてください。	文学(古典)
132	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	『男の恋』の文学史 小谷野教 勉誠出版	『恋って素晴らしい』『美しいもの』でしょうか? いえいえ、『恋はみっともなく、シタバタガいて、見苦しいもの』です。日本文学における『恋の心』として、タイトルで「未遂」と言っていること。つまり、「死なない」というオチが予めわかっている状態でも構いません。では何を表現したいお話なのか、いろいろな想像し考えながら読むとよいと思います。ちなみに、基本免費著作です。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
133	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	絵画を読む イコノロジー入門 若菜みどり ちくま学芸文庫	西洋絵画の鑑賞の仕方を知る本。絵は「好きか、嫌い」かという問いではなく、「どうして好きか、嫌いか」という問いから入ります。『絵画が読める』と、こんなふうに見えるか変わるのか?と目から鱗がポロポロ落ちる体験をしました。私と同様、「そこまで絵には興味がない」「美術展に行っても「ふ〜ん〜ん」で終わってしまう」というあなたにこそ、読んでほしいです。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
134	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	墮落論 坂口安吾 岩波文庫・角川文庫・新潮文庫等	どこに読んでもおこう。今は理解できなくても。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
135	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	輝ける闇 開高健 新潮文庫	ベトナム戦争前線から9年後の1964年、新聞社の海外特派員としてベトナムへ渡った開高は、政府軍と米軍によるヴェトナム掃討作戦に従軍する。ヴェトナムの反乱軍により、生じたのは200人のうち17人という短い期間に身を置いた三年後には発表される。表題は、ハイデガーの「何でも見えては何にも見えない」という意味の「現代は輝ける闇である」から取られている。	文学(近現代)
136	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	日本仏教史 末木文美士 新潮文庫	一口に仏教と言っても、その源であるインドも、また中国とも異なる日本の仏教が、いかなる変遷を経て成立したのか? 仏教を必要とした日本人の思想の歴史を考察するための、知的好奇心に満ちた入門書。根本による文庫版最新傑作。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
137	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	三国志演義1~4 羅貫中／立間祥介＝訳 角川文庫	魅力あふれる『三国志』の世界。『三国志演義』は歴史書としての『三国志』を小説として脚色したものであるが、様々なキャラクターが色濃く描かれていて面白い。映画・ゲームで馴染みがある人も是非読んでみよう!	文学(古典)
138	★★★	【書名】 【著者】 【出版社】	出星前夜 飯嶋和一 小学館文庫	寛永14年(1637)、突如として島原を襲った島原藩(伝説)は、一番の小吏らの命を次々に奪い取った。有楽村の庄屋・島原藩右衛門は「同知の島原」外島原を島崎と呼ぶが、代官所はあつたことこの島原藩を道放。これに抗議して少年ら数十名が村外れの教会堂跡に立てこもった。大佛次郎賞+キノブス賞+位2位に輝いた。歴史大傑作!	文学(近現代)

139	★★★	【書名】 人新生の「資本論」 【著者】 斎藤幸平 【出版社】 集英社新書	人類の経済活動が地球を破壊する「人新世」=環境危機の時代。気候変動を放置すれば、この社会は野蠻状態に陥るだろう。それを阻止するには資本主義の無限なき利潤追求を止めなければならないが、資本主義を捨てた文明に繁栄などあるのか。	社会科学系(法・経済・社会)
140	★★★	【書名】 銃・病原菌・鉄 【著者】 ジャレド・ダイアモンド 【出版社】 章思社文庫	なぜ、西洋文化が支配的になったのか。現在発展している国・地域とそうでない国・地域はなぜそうなったのか。世界的な視点からだけでなく、その地域の環境や大陸の形そのものにまで言及。かなり長く、読破するには苦勞するかもしれない。しかし、興味ある章だけでも、もしくはエピソードだけでも読んでほしい。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
141	★★★	【書名】 日本語で一番大事なもの 【著者】 大野晋・丸谷才一 【出版社】 中公文庫	非常に教養のあるおもしろい種たちが、日本語の表層について、和歌について語り合っています。私は嗣について、「へえ!」うわ、そうなんだ」と、とにかく目を丸くしてお話を聞いている気分になりました。古典文法についても、少し詳しくなっていて、古文を読む時の参考度が上がるかも。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
142	★★★	【書名】 夏目漱石 【著者】 行人 【出版社】 新潮文庫	夏目漱石のチュートリアルは「三四郎」「こころ」「夢十夜」。あたりかもしれませんが、「行人」は夏目が好きかとも思いますが、始めの人を完全にはまらせる名作です!「こころ」にあまり納得できなかった人こそぜひ読んでください。	文学(近現代)
143	★★★	【書名】 三島由紀夫 『真夏の死 自選短編集』 【著者】 新潮文庫	内容ももちろん秀逸ですが、文章の勉強になる非常にハイレベルな作品群です。「潮騒」の大衆向けに満足できないけれど他の長編はまだ手が出ないという方、これで習慣らしめましょう。	文学(近現代)
144	★★★	【書名】 暗夜行路 【著者】 志賀直哉 【出版社】 岩波文庫等	「自分は祖父の子かもしれない」。時任謙作は奇絶な運命に直面し、時には自暴自棄に押し流されそうになりながらも、強い意志で幸福をとらえようとする。志賀直哉の代表長編是非。	文学(近現代)
145	★★★	【書名】 酒池肉林 【著者】 井波律子 【出版社】 講談社学術文庫	中国の巨大建築、大運河、奥でしんやの教々々、歴代の皇帝たちの贅沢三昧のあり方から中国史を読み解いていく。そのスガールの大書きに読んでいてワクワクする「書」。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
146	★★★	【書名】 戦争は女の顔をしていない 【著者】 スヴェトラナ・アレクシエーヴィッチ 【出版社】 岩波現代文庫	第二次世界大戦で、ソ連(現在のロシア)では100万人を超える女性たちも従軍していた。看護師や医師としてだけではなく、兵士として戦った女性たちに行ったインタビューをもとに構成されたノンフィクション文学。読むのがしんどくなる箇所もあるが、事実から目を遊らすことはできない。	ノンフィクション
147	★★★	【書名】 実力も運のうち 能力主義は正義か? 【著者】 マイケル・サンデル 【出版社】 ハヤカワ文庫 NF	アメリカの政治哲学者マイケル・サンデル氏の著作。アメリカにおける能力主義(メリトクラシー)への批判とその対策を述べたもの。日本でもアメリカと同様、能力主義・学歴主義が当たり前になっているが、それは果たして「実力」なのか。解説だけでも必読。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
148	★★★	【書名】 基準値のからくり 【著者】 村上道夫(ほか著) 【出版社】 ブルーバックス	お酒はなぜ20歳からなのか、インフルエンザに罹患した時の出席停止期間はなぜ5日なのか、消費期限が切れたら食べられないのか、などなど世の中にある「基準値」について解説している。「安全」という基準をどう考えるか、そしてむやみに数値に振り回されない科学的視点が見られます。	サイエンス系(科学・理学・工学・医学)
149	★★★	【書名】 石川啄木 【著者】 ドナルド・キーン 【出版社】 新潮社	「一度でも我に眼を下げさせし人みな死ねど人のりてこと」短歌にすれば何を言ってもいいじゃないんだよ、とツツミさくになるこの歌の作者は石川啄木。その実態に迫る評伝。魅力的だけれど、反逆にはなりたくないなあと思う。啄木の歌を気軽に知りたい時は『石川啄木』(新野浩一 集英社文庫)がおすすめ。	人文系(語学・文化・文学論・教育・哲学)
150	★★★	【書名】 侍女の物語 【著者】 マーガレット・アトウッド 【出版社】 ハヤカワep文庫	環境汚染が進行し、出生率が低減する近未来社会を生きる女性を描いたディストピア小説。登場する女性の名前はオフレッド、オブレン、オブウォレン…。この名前の付けられ方にも世界観が表れています。単純にストーリーとして抜群に面白いけど、妙にリアリティがあって怖くもなります。	文学(近現代)